

派遣先所属 浪江町産業振興課

氏 名 関口 翔太 (せきぐち しょうた)

派遣期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日 (昨年度から継続派遣)

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の産業振興課は3つの係に分かれており、商工労働係では商工業や観光事業に関する企画調整、事業開始・再開支援、地場産業振興等、産業創出係では産業団地の整備・管理や企業誘致を、新エネルギー推進係では再生可能エネルギーやゼロカーボン、スマートコミュニティの推進を行っています。私は令和5年4月に商工労働係に配属され、町独自の補助金の申請受付、審査や、事業者が県や国に提出する補助金申請内容の確認、町内での事業開始・再開の相談受付、町の秋の風物詩である十日市祭の運営補助等に関する業務を行っています。

商工労働係は令和6年11月時点で8名(うち常勤7名)が在籍しています。うち、浪江町の常勤プロパー職員は2名で、他は任期付職員や民間企業、他自治体からの派遣職員で構成されています。応援職員が多い係故の難しさを抱えつつも、バックグラウンドの異なる職員たちが力を合わせて業務を行っています。

私が派遣されている福島県浪江町は、福島第一原発事故の影響により、平成29年3月まで全町避難となっていました。町からあらゆる機能・生活が失われた期間を経て、町に戻って事業を再開し、また町内で新たな事業を開始しようとする方々のために多様な優遇措置が整備されています。事業者の方々を適切にサポートすることで町に商業環境やサービスを取り戻し、生み出していくことが私の仕事の1つです。また、町の秋の風物詩である十日市祭は、現在避難を余儀なくされている町民が復興途上のこの町に訪れる数少ない機会となっています。今年度は業務として十日市祭に携わり、その意義を再確認することができました。

派遣前に埼玉県職員として6年間勤務し、産業振興関係の業務は未経験という中で派遣2年目を迎えました。業務に慣れつつある部分があれば、まだまだ知らないことや想像が及ばないこともあり、この分野の奥深さを感じています。限りある派遣期間の中で何を残すことができるのかを考えながら残りの期間を過ごしていこうと思います。

## 2 被災地の復旧・復興の状況

浪江町を含む福島第一原発事故で長期間にわたり避難生活を強いられた場所では、未だに長きにわたって人の手が入らなかった爪痕を感じます。浪江町では、震災後約6年にあたる平成29年3月31日に避難指示解除準備区域と居住制限区域の避難指示が解除されました。その後、多くの建物が解体され、震災前にあった町並みは一変し、現在でもブロック塀だけが残された宅地や時が止まったかのように残された家々が多くみられます。そのうえ、津波被害が大きかった沿岸部は居住できないエリアに指定され、原

発事故により生じた帰還困難区域は未だ町の面積の多くの部分を占めるなど、震災から13年経っても帰還が叶わない人がいます。震災前に約21,000人いた町の人口は、令和6年になって2,200人を超えましたが、それでも以前の1割程度までしか戻せていないという厳しい現実があります。

一方、町の歩みは着実に前へ進んでいます。飲食店やスーパー、道の駅が完成し、多くの人に利用されています。自身も町内で1年半生活し、特段困ることはなく快適に暮らすことができる状況です。産業団地には多くの企業が進出しており、国家的プロジェクトであるFH2R（福島水素エネルギー研究フィールド）が町内で稼働開始し、F-REI（福島国際研究教育機構）が開所するなど、日本の科学技術・産業をより高いレベルに引き上げる中心として機能する都市となっていくことが期待されます。浪江駅の周辺では、F-REIや浪江駅を中心としたエリアに様々な施設整備の計画が動いており、これらがすべて現実のものとなったとき、現在の町内の様子とはまた大きく変わることが見込まれます。

### 3 被災地への派遣となって感じたこと

令和5年度に浪江町に派遣されるまで町のことを全くわかっていなかった中で、役場をはじめ関係者の皆様の御支援があり、何とかここまで仕事をさせていただいています。気分転換に町内の飲食店に行くとどこも質が高く、派遣前に比べて体重が大幅増となったため、せめてもの足掻きとして週末は東北地方の山々に出かけるようになりました。そのなかで、浪江町のみならずこれまであまりなじみのなかった東北地方を知ることができました。

派遣される前、関東圏でしか生活したことがなかった私にとって「震災」はほとんど思い出すことのないものでした。その震災及び原発事故に翻弄された実態を目の当たりにし、特に浪江町をはじめ、浜通りの一部地域の復興はまだまだは道半ばという印象を強く抱きました。

一方、令和6年の正月に発生した石川県能登地方での大きな災害を受け、世間でいう「震災」が能登地震のイメージに変わっていく現実もあり、浪江町、そして東日本大震災・原発事故からの復興に対する考え方やその施策をアップデートする必要性に迫られるタイミングになっています。浪江町の今後の歩みにずっと今のような形で関わっていくことは立場上できませんが、新たな浪江町の姿を楽しみにしながら、今後も私にできることの中で力になりたいと思っています。



【浪江町の外食事情】

これでもまだまだ一部です。



【なみえ浜まつり】

今年度からスタートしました。



【福島県の名峰】

ダイエットのため登山を始めました。  
 左上から安達太良山、会津駒ヶ岳、磐梯山  
 一切経山、西吾妻山、三本槍岳

【東北の名峰】

左上から八甲田山（青森）、鳥海山（山形）  
 月山（山形）、早池峰山（岩手）